

令和5年度 岡山県文化振興審議会

日時：令和6年1月31日（水）

14時～15時30分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開 会

2 議 事

- ・ 令和5年度県実施主要事業について
- ・ おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版の進捗状況について
- ・ 令和6年度重点事業について

3 その他

4 閉 会

岡山県文化振興審議会委員

任期：2022. 2. 1～2024. 1. 31

氏 名	役 職 名	
臼井 洋輔	きび美ミュージアム館長	
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉館長	
加納 容子	勝山文化往来館ひしお副館長	
神崎 宣武	民俗学者	
柴田 奈美	岡山県立大学デザイン学部教授	欠席
高原 洋一	岡山県美術家協会副会長	欠席
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長	欠席
二階堂 裕子	ノートルダム清心女子大学文学部教授	
松田 正己	山陽新聞社代表取締役社長	

敬称略 50音順

岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

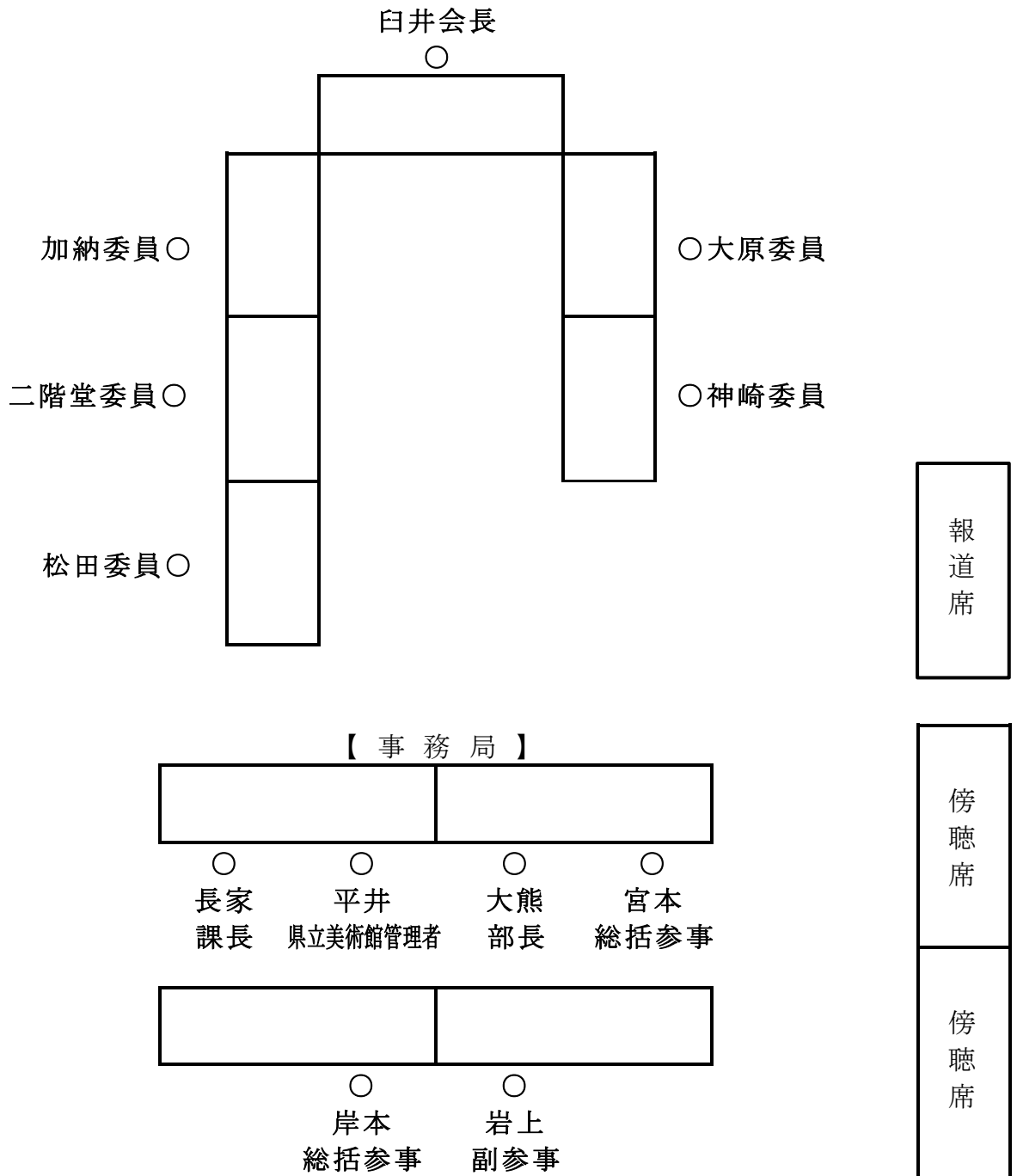
(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。

令和5年度 岡山県文化振興審議会 配席図

日時：令和6年1月31日（水）14:00～15:30

場所：ルネスホール ワークルーム



令和5年度 岡山県文化振興審議会

配 付 資 料

日時 令和6(2024)年1月31日(水)

14時～15時30分

場所 ルネスホール ワークルーム

1 令和5年度県実施主要事業

(1) アートプロジェクトおかやま推進事業

- ① おかやまAIR地域協働事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ② 次世代おかやまアーティスト活動促進事業・・・・・・・・・・・・ 3
- ③ アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業・・・・・・・・・・・・ 5
- ④ オーケストラの鑑賞機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(2) おかやま文化芸術アソシエイツ事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(3) 部活動の地域移行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(4) 県立美術館事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2 おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版の進捗状況・・・・・・・・・・・・ 20

3 令和6年度重点事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

4 その他

おかやま A I R 地域協働事業

事業の趣旨・目的	<p>地域住民が優れた芸術文化に身近に接する機会を提供するとともに、地域の魅力をアートで掘り起こし、国内外へ発信することを目的とし、国内外のアーティスト(美術家、音楽家、舞踊家など)を招へいし、滞在制作を行うA I R (Artist In Residence) に併せて、地域との協働による取組を行うことで、地域にアートを取り入れ、多様な視点から岡山ならではの文化活動や創造活動などを促進する。</p>
事業概要	<p>1 People, Art and Territory ～人々、アートそして地域～</p> <p>(1) 実施団体 EKG合同会社 (2) 鑑賞者数 810名 (3) 参加アーティスト(2名) ジャコモ・ザガネッリ、シルビア・ピアンティエーニ</p> <p>(4) 概要 イタリア出身のアーティストである両氏を津山市に招へいし、約1か月のレジデンス・プロジェクトを実施した。 期間中、美術関係者のみならず子どもから大人まで幅広い地域の方々と交流を重ね、その対話の中から地域の課題やテーマを洗い出す様々なプログラム、津山高校美術部生徒との5日間のワークショップや多世代交流施設「じ・ば・子のおうち」での交流事業、県北アーティストとのディスカッション等を展開した。 滞在の最後には、プレゼンテーションとしての「3日間の展覧会」をポートアート&デザイン津山において開催した。 会期：令和5年10月 8日～10月29日 10月 8日 開会式、オープニングセレモニー 16日～20日 津山高校美術部生徒とのワークショップ 28日 樹木匠さんとの津山歩き、地域資源についての対話 29日 県北アーティストとのディスカッション 27日～29日 3日間の展覧会 →江見写真館と協働し津山市の古い写真を編集した動画作品展示 →滞在中に撮影した私的な動画を編集した作品展示 →津山高校美術部生徒の動画作品展示 等 会場：ポート アート&デザイン津山、津山高校、城東地区公民館 等</p> <p>2 湯郷A I R Vol.2 片山康之(仮称)【実施予定】</p> <p>(1) 実施団体 湯郷温泉旅館協同組合 (2) 参加アーティスト(1名) 片山康之</p> <p>(3) 概要 彫刻作家・片山康之氏を湯郷温泉に招へいし、湯郷温泉らしさを表現したアート作品を滞在制作し、その作品を温泉街に恒久的に設置する。 作品のアイデアやイメージは地域の方々へのインタビュー等から発想する予定であり、湯郷温泉にまつわる作品を制作する。 滞在期間中には、作品制作のみならず、公開制作を実施し地元の方々との交流を深める。また、子ども達に向けたワークショップなどを積極的に開催することとしている。 会期：令和6年2月～3月頃 会場：湯郷温泉街(小縄手池周辺を予定)</p>

People, Art and Territory ～人々、アートそして地域～



《事業の評価》

<p>自己評価</p>	<p>森の芸術祭の参加アーティストを招へいする意欲的なプログラムであったが、地域のアート機運を高めたいという思いに共感した津山周辺のアーティストや民間団体、津山高校、市役所等多くの関係者が協力し、予定した事業をすべて実施できた。この取組より、豊かな地域資源を再発見するとともに「アート」を共通項として地域の交流が図られ、今後につながるアート機運が醸成された。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>より多くの事業提案が応募されるよう、提案募集の時期を検討するとともに、事業の周知を一層図る。 また、審査方法について見直し、地域住民とのワークショップや公開制作などが更に図られるよう努める。</p>

次世代おかやまアーティスト活動促進事業

事業の趣旨・目的	<p>次世代を担う芸術家を育成するとともに、県民に対して優れた芸術に触れる機会を提供し、県文化の底上げを図ることを目的として、岡山県にゆかりのある芸術家を起用した企画展や舞台などを実施し、活動の機会を創出する。また、併せて若手・新人の芸術家にも活動・発表の機会を提供し、創作活動を支援する。</p>
事業概要	<p>1 出口裕子による日本歌曲公開講座 ～日本語が音になるとき～</p> <p>(1) 実施団体 岡山県演奏家協会</p> <p>(2) 鑑賞者数 248名</p> <p>(3) 参加アーティスト(16名) 出口裕子(声楽)、小林美智、山岡珠代、角田奈名子(ピアニスト)、 ほかにレッスン生12名</p> <p>(4) 概要 地元岡山で日本歌曲を中心とした公演や講座を通しての普及活動に力を入れている出口裕子氏を講師に迎え、本県ゆかりの音楽家が直接学ぶ場を設け、その様子を一般公開する「公開講座」と受講生が講座の成果を発表する「修了コンサート」から成る日本歌曲公開講座を開催した。 公募した12名の受講生は2回の講座を通して正確な発声と情緒豊かな表現方法を学び、その成果を修了コンサートという形で発表した。 日時：令和5年6月24日、7月15日(公開講座) 7月22日(修了コンサート) 会場：ルネスホール</p> <p>2 境を撫でる者達【実施予定】</p> <p>(1) 実施団体 EKG合同会社</p> <p>(2) 参加アーティスト(4名) 李侖京(工芸)、丸山智代(版画)、白神恭子(クラフト)、森真保(舞踏家)</p> <p>(3) 概要 I氏賞受賞作家である李侖京氏を中心に3名のアーティストがコラボレーションすることにより、視覚はもとより嗅覚、触感といった五感に訴えかけるユニークな展覧会を開催する。加えてファイバーアートとダンスパフォーマンスでは視覚と聴覚を、布とアロマのワークショップでは嗅覚を刺激する。 単に「見る」だけではない仕掛けにより、五感の境界線が曖昧になり感覚全体で芸術に浸ることのできる新たな形の展覧会を開催する。 会期：令和6年2月10日～3月24日 2月10日(ファイバーアートとダンスパフォーマンス、布とアロマのワークショップ) 2月23日、3月10日(銅版画制作ワークショップ) 会場：ポート アート&デザイン津山</p>

出口裕子による日本歌曲公開講座



《事業の評価》

<p>自己評価</p>	<p>日本歌曲の第一人者による公開レッスンと修了コンサートを一連で実施する画期的な企画で、昨年度のドイツ歌曲塾に続く2回目となった。ドイツ歌曲とは違う技巧や表現が必要となる日本歌曲での今回の取組は、将来を担うレッスン生には非常によい経験になった。また、単年度に終わらない継続した取組は関係者に高い評価を得た。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>より多くの事業提案が応募されるよう、提案募集の時期を検討するとともに、事業の周知を一層図る。 また、審査方法について見直し、次世代を担うアーティストの育成や県民が優れた芸術に触れる機会の提供が一層図られるよう努める。</p>

**アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業
「アートで地域づくり実践講座」の開催状況**

事業の趣旨・目的	地域の資源を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出につながる文化芸術イベントの企画やコーディネートができる人材を育成し、文化を核とした地域づくりを推進する。
フィールドワーク場所	勝央町
事業概要	<p>1 講師 江森 真矢子 ((一社)まなびと代表理事) 北島 琢也 ((株)KAMP代表取締役) 岸本 和明 (奈義町現代美術館館長)</p> <p>2 講座受講申込者数 17名</p> <p>3 講座修了者数 14名</p> <p>4 講座の開催(6月10日～1月27日) 全13回+実証イベント 企画の進め方や実際のアートイベントの運営、イベントの広報戦略、効果的な広報物の作成方法などを講座講師、外部講師から学ぶ座学講座に加え、地域の資源や歴史・文化を生かしながら、受講生自らが企画・準備から開催・運営までを実際に経験する文化イベント(実証イベント)を行った。 イベント終了後は、振り返りを行い、講座で学んで知識や経験を基に実際にイベントの企画書の作成を行った。</p> <p>5 実証イベントの開催(11月18日～19日) 講座の集大成として、受講生自らが企画・準備・開催・運営までを行う実証イベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント名 : SH00 Transport Art Fes. ・ 開催場所 : おかやまファーマーズマーケット ノースヴィレッジ 駐車場(勝央町岡1100番地) ・ プログラム : 3名のアーティストによるライブパフォーマンス 5団体によるワークショップ 2団体によるキッチンカー 勝央町ゆかりの団体による太鼓演奏、ダンス ・ 概要 : 3名のアーティストによるライブパフォーマンスをメインとして2日間の実証イベントを実施。会場ではワークショップやキッチンカーを配置し、子どもから大人まで全ての世代が楽しめる内容とした。 勝央町が持つ魅力を回覧板のように未来へ繋いでいきたいという思いを「未来への回覧版～魅力・人・繋がり～」に込め、人の手から手へと動いていく回覧板を乗り物に置き換え、自動車を利用したアートパフォーマンスを実施した。 各パフォーマンスには「勝央町の魅力」や「未来を担う子ども」といったキーワードを反映させた。 ・ 来場者数 : 約1,440人 <p>6 講座修了生の活動促進 1月に、助成金獲得を目指した実践的な企画立案の講座を行い、活動の促進を図った。</p>

講座(座学、グループワーク、フィールドワーク) 6月10日~1月27日 全13回



アートと地域についての講義



フィールドワーク後のグループディスカッション



グループワークの発表



実証イベントに向けた作業

実証イベント 11月18日~19日



イベントの当日準備



自作のイベント看板

実証イベント 11月18日～19日



イベントの風景



河内大樹さんの作品



高田恵治さんの作品



Narumi Kawaseさんの作品



勝央金時太鼓の演奏



ワークショップ風景

事業の評価

<p>自己評価</p>	<p>アートイベント等に関心の高い県民を対象とする講座を開催地自治体と協働して実施し、座学、フィールドワーク、ワークショップ等を通じ、人材の育成に取り組んだ。講座は6月から翌年1月まで毎月2回程度開催し、内容も、受講生主体に意見交換や議論を活発に行い、受講生が主体的に考え取り組むものにできた。 また、実証イベントの実施に当たっては、勝央町、ノースヴィレッジ、アート関係者等様々な主体に協力をいただきながら受講生が自ら主体的に動き実施することができ多くの経験を積むことができた。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>講座の実施に当たっては、これまでの経験を生かし、受講生がグループとして活動しやすくなる雰囲気づくりに努めるとともに、辞退者を減らすよう常任講師とともに講座外でのフォローを行っていく。 講座修了後については、サポート体制をより充実させ、講座修了生の今後の活動を支援することにより、アートの力を活用した地域づくりを行うことのできる人材を地域に定着させていく。</p>

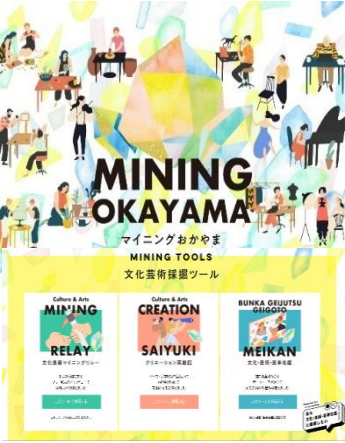
オーケストラの鑑賞機会の提供

事業の趣旨・目的	<p>県下さまざまな地域において、本格的なプロのオーケストラによる質の高い芸術鑑賞の機会を提供し、音楽の楽しみを通じて明るい希望をもたらす地域の活性化を図ることを目的に、県下唯一のプロオーケストラ「岡山フィルハーモニック管弦楽団」による特別公演を開催する。</p>
事業概要	<p>【令和5年度実績】</p> <p>○備前特別公演</p> <p>日 時：令和6年1月28日（日）14時開演</p> <p>場 所：備前市市民センター（備前市西片上）</p> <p>出 演：指揮／三ツ橋 敬子 フルート／畠山 奏子</p> <p>曲 目：モーツァルト／ディヴェルティメントK.136 モーツァルト／フルート協奏曲第1番K.313 モーツァルト／交響曲第25番K.183</p> <p>入 場 料：一般 2,000円、ユース（19歳以下） 1,000円</p> <p>入場者数：490名</p>
	

事業の評価

自己評価	<p>開催直後のため、アンケート集計はこれからだが、備前市窓口での販売状況から、来場者の半数以上が近隣エリアからであったことが推測される。また、会場の様子から、年齢層も小学生から高齢者まで幅広く、多くの方々に鑑賞の機会を提供することができた。</p> <p>開催にあたっては、広報やチケットの販売、当日の運営など、共催者として、備前市に加え、（一財）備前市文化芸術振興財団の協力も得ながら、連携し実施することができた。</p> <p>来場者からは、次回開催を望む声も寄せられ、今後も、地方での開催を通じて、より多くの県民に芸術鑑賞の場を提供してまいりたい。</p>
今後の課題	<p>より多くの集客を図るため、開催地の自治体と連携し、集客に向けた広報等の取組を継続し、さらに強化していく必要がある。</p>

おかやま文化芸術アソシエイツ事業

事業の趣旨・目標	<p>公益社団法人岡山県文化連盟に「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、文化芸術に関する相談支援、情報発信、人材育成などに継続的に取り組むことにより、芸術家や文化団体等による文化活動の促進を図る。</p>																
事業概要	<p>1 専門人材の配置</p> <p>【プログラム・コーディネーター 1名】 ・金孝妍/アーティスト</p> <p>【プログラム・オフィサー 1名（兼務）】 ・高田佳奈/公益社団法人岡山県文化連盟主任、認定ファンドレイザー</p> <p>【エグゼクティブ・アドバイザー 1名】 ・大月ヒロ子/ミュージアム・エデュケーション・プランナー</p> <p>【アドバイザー 4名】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: none;">アドバイザー（非常勤）</td> <td style="border: none;">杉浦幹男（インディペンデント・ディレクター）</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">アドバイザー（非常勤）</td> <td style="border: none;">朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">アドバイザー（非常勤）</td> <td style="border: none;">斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">アドバイザー（非常勤）</td> <td style="border: none;">森山知己（日本画家、倉芸術科学大学学長補佐）</td> </tr> </table> <p>2 主な事業・実績</p> <p>(1) ポータルサイト「マイニングおかやま」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース「文化・芸術・芸事名鑑」の充実に努めた。登録数192件（令和5年12月現在） ・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口へ寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として採択し助成した。助成件数1件（令和5年12月現在） <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ポータルサイト「マイニングおかやま」</div> </div> <p>(主なコンテンツ)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%; padding: 5px;">コンテンツメニュー</th> <th style="padding: 5px;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">文化芸術 マイニングリレー</td> <td style="padding: 5px;">岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">クリエイション サイウキ 再遊記</td> <td style="padding: 5px;">県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">文化・芸術・ ゲイム 芸事名鑑</td> <td style="padding: 5px;">県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース</td> </tr> </tbody> </table> <p>(モデル事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校芸術鑑賞会における招聘劇団選定のためのコーディネーターを紹介 ・小学校の創立150周年記念事業の展示計画及び展示指導アーティストのマッチング <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	アドバイザー（非常勤）	杉浦幹男（インディペンデント・ディレクター）	アドバイザー（非常勤）	朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）	アドバイザー（非常勤）	斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）	アドバイザー（非常勤）	森山知己（日本画家、倉芸術科学大学学長補佐）	コンテンツメニュー	内 容	文化芸術 マイニングリレー	岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介	クリエイション サイウキ 再遊記	県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集	文化・芸術・ ゲイム 芸事名鑑	県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース
アドバイザー（非常勤）	杉浦幹男（インディペンデント・ディレクター）																
アドバイザー（非常勤）	朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）																
アドバイザー（非常勤）	斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）																
アドバイザー（非常勤）	森山知己（日本画家、倉芸術科学大学学長補佐）																
コンテンツメニュー	内 容																
文化芸術 マイニングリレー	岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介																
クリエイション サイウキ 再遊記	県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集																
文化・芸術・ ゲイム 芸事名鑑	県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース																

(2) 文化団体等の活動支援

- 文化団体等の活動に対する助言、支援を行った。
- 文化団体等からの相談件数・・・68件
(令和5年4月1日～令和5年12月31日現在)
- <主な相談内容>
 - 各種助成金について教えて欲しい。
 - クラウドファンディングについて相談したい。
 - 作品の著作権について相談したい。
 - 琴、三味線について寄付したい。
- 文化芸術等に関するワンストップ相談窓口「おかやま文化芸術活動相談窓口」の開設



(3) 県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業

ア おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」

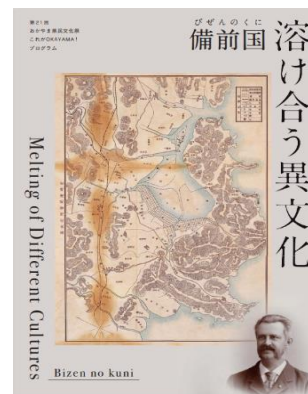
地域の文化芸術資源を活用し、新たな価値の再発見と楽しみ方を提案する「これがOKAYAMA!プログラム」について、大月ヒロ子氏の企画・監修のもと、文化芸術アソシエイツが運営・実施した。

「備前国 溶け合う異文化」をテーマに、楽しく学べる様々なプログラム、学びを生み出す「場」やそれを支える「人」などをリーフレットにまとめて紹介するとともに、県文祭ならではの特別ワークショップを企画実施した。

備前国 溶け合う異文化

- 特別ワークショップ 5プログラム
 - 「岡山と中国茶文化の繋がりを知り、中国茶を味わう茶会」(10/28)、
 - 「済州島の法事の料理を食べてみよう！」(10/30)、
 - 「やさしい日本語でアートを楽しむワークショップ」(11/25) など
- 総プログラム数 12

【備前国 溶け合う異文化 リーフレット】
A5サイズ 15,000部、A4サイズ 200部



イ 「文化芸術交流実験室」(トークセッション&ワークショップ)

文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流を通じて文化資源を掘り起こすとともに、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出する「文化交流実験室」を開催した。(一部を県民文化祭のプログラムとして実施)

平成29年度～令和5年度で45回の実験室を開催し、県内各地で様々な分野を横断する交流を通じて、新たな文化資源を発掘してきた。

令和5年度は、一部のプログラムをおかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」として実施し、県民総参加の文化の祭典に新たな風を吹き込み、生き活きと心豊かに暮らすヒントを提供した。



実験室42

(講師敬称略)

YouTube配信コンテンツ

訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑥

「プロによるプロのための指導とは。オペラの練習風景から」

協力：ルネス・アカデミー アルテ・シェニカ

素材：オペラ制作工程と指導の様子



実験室43

(講師敬称略)

9/24 「美食地質学:この地域の食はなぜ美味しいのか」

講師: 巽 好幸 (ジオリブ研究所 所長)

岡嶋隆司 (犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム 事務局長)

場所: 渚の交番 ひなせうみラボ

参加者: 19名



実験室44

10/8 「溶け合う異文化:自然の一部として『個』を考える」

講師: 今福龍太 (文化人類学者)

岩本象一 (音楽家、ガムラン演奏家)

場所: 犬島自然の家

参加者: 18名



実験室45

11/26 「ことばのおと、おとのことば」

講師: 川瀬 慈 (映像人類学者)

ハブヒロシ (アーティスト、遊鼓奏者)

場所: 喫茶さざなみハウス

参加者: 20名

ウ 公式YouTubeチャンネルーおかやまカルチャー・ヴィ

「楽しいが見える！」をコンセプトに、文化連盟会員が作成する様々な動画コンテンツや、県内で文化芸術活動を行う方が自ずから撮影した動画を配信する場として、YouTube公式チャンネルをオープンした。

現在までに51本の動画を公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えている。配信は不定期だが、文化芸術交流実験室も一部配信で実施するなど、おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介するとともに、デジタルアーカイブの役割も担う。



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.6 「プロによるプロのための...」
508 回視聴・3か月前



クイズ 何の鳴き声？【クイズに答えて、県産品をもらっちゃおう！】
103 回視聴・4か月前



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.5 「自然との共生から生まれ...」
319 回視聴・1年前

(4) 文化活動に係る研究会、勉強会等

・「アートマネジメント研修」

地域文化に関する専門職を養成することを念頭に、文化・芸術団体を中から支える職員の育成と意識向上を目的にしているが、一部を県民文化祭のプログラムとして実施することで、一般で興味関心のある層にも広く参加の機会を提供した。

事業概要	(講師敬称略)
	<p>9/22 アートマネジメント研修⑤ 「雑誌『地域創造』編集プロデューサー坪池栄子のここだけの話！！」 講師：坪池 栄子氏 (株式会社文化科学研究所 「地域創造レター」 「雑誌地域創造」 編集プロデューサー) 内容：地域創造が年1回のペースで発行する雑誌「地域創造」の編集プロデューサーとして、雑誌の創刊から全国各地の公立文化施設の現場を取材して来られた坪池栄子さんを講師に迎え、文化・芸術環境づくりのケーススタディーや公立文化施設の有効な運営方法を模索する知恵などについて、自ら足を運び目で見てきた人にしかわかりえない公立文化施設に関する本音の部分の部分を伺う。対面のみで実施。 場所：岡山県天神山文化プラザ 受講者：対面19名</p>
	<p>【今後の開催予定】</p> <p>3月予定 オンライン併用によるアートマネジメント研修⑥「未定」 講師：芹沢高志氏 (アートディレクター、アーツカウンシルさいたま アドバイザリーボード) 内容：AAF (アサヒ・アート・フェスティバル)、横浜トリエンナーレ、BEPPU PROJECT、さいたま国際芸術祭など、プロ・アマチュアを問わず数多くのアートプロジェクトに携わって来られた芹沢さんを講師に迎え、地域とアートプロジェクトの関係性やアートプロジェクト開催の前後で地域の何が変わるのか、また、今後地域で開催されるアートプロジェクトの可能性などについてお話しいただく。</p>
	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> その他 </div> <p>1)各種助成金、補助金の審査、選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかやま県民文化祭共催事業文化パワーアップアクション助成の選考 ・県が実施する「AIR地域協働事業」及び「次世代アーティスト活動促進事業」の選考 ・公益財団法人福武教育文化振興財団の「教育文化活動助成」の審査 ・公益財団法人真庭エスパス文化振興財団の「エスパス芸術文化助成」(真庭市)の審査 <p>2)講師、講演等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アートで地域づくり実践講座」(県事業)のテキスト作成と講義 <p>3)全国アーツカウンシル・ネットワークミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から2年間幹事団体 ・第1回 7/14(金)、7/15(土)@宮崎市、シンポジウム「社会包摂の現在地 アーツカウンシルと他分野連携～障害者芸術支援センターとの連携から～」参加 ・第2回 10/13(金)@東京都千代田区

事業の評価

自己評価	<p>部活動の地域移行を進めるため、市町村や文化団体等との意見交換会を開催し、地域の実状や課題等を把握に努めたところ、地域の指導者の把握が困難との意見が複数あったことから、文化関係の人材バンクとして、位置づけている「マイニングおかやま」の積極的な周知に努めた。</p> <p>文化芸術等に関するワンストップ相談窓口を通じ、文化団体等からの相談に積極的に対応するなど、文化団体等の活動への支援を行った。</p> <p>おかやま県民文化祭や文化芸術交流実験室、アートマネジメント研修なども予定どおり開催することができ、県民による文化活動の充実を図るとともに、県内芸術家と県民・地域とのネットワークづくりに努めた。</p>
今後の課題	<p>文化芸術交流実験室などの取組への参加者をさらに増加させていくため、より一層の情報発信に努める。</p> <p>地域指導者の更なる掘り起こしのためには、「マイニングおかやま」の認知度を高める必要があることから、引き続き、市町村や文化団体に周知を図っていくとともに、機能の充実を図る。</p>

学校部活動の地域連携・地域移行

事業の趣旨・目的	<p>少子化の進行により、学校部活動を従前と同様の体制で運営することが難しくなってきた地域があることから、学校部活動から、学校と地域との連携・協働により整備すべきものである地域クラブ活動へ移行させていくという国により示された方針により、県においてもその取組を進めている。</p> <p>誰もが身近にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりを進め、今後の学校部活動の地域連携や新たな地域クラブ活動への移行を見据えた環境整備に向け、今年度、県では、意見交換会の開催や文化関係者向けの人材バンクの周知に努めた。</p>
事業概要	<p>【令和5年度実績】</p> <p>1 意見交換会の開催</p> <p>(1) 目的 部活動の地域連携・地域移行の動きを見据え、地域のスポーツ・文化環境の整備に向け、地域の実状や課題等を把握する。</p> <p>(2) 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回（令和5年6月） 参加者：市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、スポーツ推進委員等 ・ 第2回（令和5年8月） 参加者：競技団体・文化芸術団体関係者、中学校体育・文化連盟 ・ 第3回（令和5年11月） 参加者：市町村スポーツ・文化主管課及び教育委員会担当者 ・ 第4回（令和6年2月（予定）） 参加者：市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、スポーツ推進委員等 <p>(3) 主な意見（第1～3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者となり得る人材の掘り起こしが困難 ・ 指導者研修会を実施してほしい ・ 高齢化が進んでおり、後継者の育成が必要 ○経費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恒久的な財政確保に苦慮 ○手段方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行をどう進めていけばよいのか手法がわからない <p>2 「マイニングおかやま」の周知</p> <p>県文化連盟が運営している「マイニングおかやま」のうち、県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース「文化・芸術・芸事名鑑」の充実にも努めた。</p> <p>登録数192件（令和5年12月現在）</p>



事業の評価

自己評価	<p>スポーツ振興課と連携し、市町村やスポーツ・文化団体が参加する意見交換会を複数回開催したことで、地域の実状や課題等を把握することができた。</p> <p>意見交換会では、地域の指導者の把握が困難との意見が複数あったことから、文化関係の人材バンクとして、位置づけている「マイニングおかやま」を、改めて、市町村、関係団体等に周知を行った。</p>
今後の課題	<p>今後とも、部活動の地域移行が円滑に進むよう、スポーツ振興課、県教育委員会と連携して、県内の状況についての把握に努める。</p> <p>地域指導者の更なる掘り起こしのためには、ポータルサイトの認知度を高める必要があることから、引き続き、市町村や文化団体に積極的に周知を図っていく。</p>

県立美術館事業

県民の幅広い文化活動の発展に寄与するため、岡山ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会をはじめ、美術館講座や教育普及など、当館の機能を最大限に活用した事業を展開している。

また、当館を県民や観光客が気軽に訪れ、安心してさまざまな美術体験ができるよう、積極的な広報活動やきめ細かなサービスの提供を行うとともに、若い世代やこれまで足を運んだことのない人々に来館を促す事業にも取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症対策については、感染症法上の5類への移行に伴い、マスク、検温等の制限を順次緩和した。

1 展覧会事業

《事業の趣旨・目的》

岡山ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会を開催し、県民に美術を中心とした国内外の優れた芸術文化に触れる機会を提供する。

《概要》

「岡山の美術展」（常設展示）では当館のコレクションを活用した展示等で、県民の誇るべき財産であることを発信するとともに、「特別展」（企画展示）では、古代から現代に至るさまざまな時代や地域の多様なジャンルにおける特色のある優れた作家や作品を紹介する。

本年度は、開館35周年を記念し、全館を使ってのコレクション展を実施、「岡山の美術」を新たな視点で捉え直す機会とした。また、コロナ5類移行を受け、諸外国との交渉も再開されたことから海外展も順次計画、また「鬼滅の刃」展のような展覧会を実施することで美術館にあまり馴染みのない層の来館を促すことにも努めた。

令和5年度 岡山の美術展（常設展示）

展覧会名	期 間	観覧者数（人）
第1期 「岡山の美術展」	3/24～ 5/7	5,379
第2期 特別展として開催	5/19～ 6/11	(1,807)
第3期 特別展として開催	6/14～ 7/2	(1,884)
第4期 「皇室と岡山」関連展示ほか	7/15～ 8/27	13,337
第5期 「岡山の美術展」	9/ 6～ 11/5	7,962
第6期 特別展示「第13・14回 I 氏賞大賞受賞作家展」	11/11～ 12/10	5,380
特別展示「清水比庵展」	〃	
特別展示「もっと伝統工芸」	〃	
第7/8期 特別展示「中山巍展」ほか	12/15～ 2/18	
第9期 「岡山の美術展」	2/27～ 4/7	
計		32,058

令和5年度 特別展（企画展示）

展覧会名	期 間	観覧者数（人）
和田誠展	3/24～ 5/ 7	20,309
開館35周年収蔵品展「CORRELATION-交流と継承」	5/19～ 7/ 2	3,651
美をたどる皇室と岡山～三の丸尚蔵館収蔵品より	7/15～ 8/27	12,774
第74回岡山県美術展覧会	9/ 7～ 9/18	5,278
ウィルアム・モリス展	9/29～11/ 5	14,907
第70回日本伝統工芸展岡山展	11/16～12/ 3	6,001
『鬼滅の刃』吾峠呼世晴原画展	12/15～ 2/18	
走泥社再考展	2/27～ 4/ 7	
計		62,920

<参考>令和6年度 特別展（企画展示）

展覧会名（仮称）	期 間
小林正和展	4/19～ 5/26
北斎と広重展	6/ 7～ 7/ 7
鈴木敏夫とジブリ展	7/ 9～ 9/ 1
第75回岡山県美術展覧会	9/ 4～ 9/15
シルクロード展	9/16～11/10
第71回日本伝統工芸展岡山展	11/21～12/ 8
柚木沙弥郎展	2/14～ 3/23

《事業の評価》

自己評価	<p>岡山の美術展は「美をたどる皇室と岡山」展に合わせて、関連展示を同一展示室で行ったことで、観覧者数が昨年度より1万人ほど増加している。</p> <p>特別展は新型コロナ明けの初年度であったが、前年のドラえもん展（観覧者5.6万人）のような集客力が高い展覧会が少なかったこともあり、観覧者数は昨年度より4万人ほど減少している。</p> <p>令和5年度観覧者数は合計で10万人を少々上回る程度の見込みである。コロナ禍からの復活の足取りは鈍い。</p>
今後の課題	<p>観覧者の減少傾向がコロナ禍により拍車がかかった感があり、今後、更に魅力ある作品展示を行うとともに、その魅力を伝える工夫が求められる。</p>

2 教育普及事業等

《事業の趣旨・目的》

「博物館をあらゆる人に開放する最も有効な方法に関する勧告」（1960年ユネスコの勧告）に基づき、「一人ひとりが文化的で豊かであること」を目指して、社会や市民（citizen）と美術館の接点を形成する活動を行う。

《概要》

○ こんにちは美術館事業

社会教育施設として、社会や市民と美術館の接点を形成するため、誰もが楽しむことができる「交流の場」としての教育普及事業の実施に努めた。

・美術館講座

美術館の仕事と美術の様々な側面を知ってもらうために、当館職員が、自身の研究・業務内容、特定のテーマや展覧会等について行う講座を実施（アウトリーチ含）。

・美術の夕べ・音楽の夕べ

夜間開館日に実施する展覧会関連フロアレクチャーや演奏会を実施。

・ワークショップ

参加者の主体的な学びを、美術館や美術作品を介して触発するワークショップを実施。「きつず&じゅにあ・ミュージアム・Lab」、「ユニバーサル・ミュージアムWS」を重点的に実施（アウトリーチ含）。今年度は、やさしい日本語WSやひきこもり支援WS等も実施。岡山の美術展観察日誌も継続実施。

○ 博学・博社連携事業

美術館教育と学校教育が連携することを通して、児童・生徒・学生が、社会や市民、美術館との接点を形成する活動を行う。事業内容は以下のとおりである。

・博学・博社連携会議・研修会

以下の事業を行うにあたり、連携会議・研修会を開催。

・みんなの参観日事業

「図工・美術の時間の子どもの学び」を美術館に展示して、多様な市民がそれを「参観する場」として実施（第5回）。

・スクールプログラム

学校教育と美術館教育の協働を通して、学校団体観覧（美術館学習）を受け入れ、児童・生徒・学生が美術館、美術作品、美術とよき出会いをするプログラムを実施（アウトリーチ含む）。

・美術館教育素材の制作

美術を通じた学びによって社会貢献することを目的に、高校と協働して「美術館教育素材」を制作（原田直次郎プロジェクト_5年継続事業の2年目）。

・カルチャーゾーン・ミュージアムラーニング・プロジェクト

ミュージアムラーニングを核に、カルチャーゾーン内のミュージアム5館で共働プロジェクトに取り組む。今年度は、「ミュージアムの使い方"あいうえお"」を作成。

《事業の評価》

自己評価	展覧会関連講座や子供向けのワークショップなどは人気が高い。美術への理解を深めるとともに美術館に親しんでもらえたと考えている。 また、外国人や障がい者、ひきこもり当事者など社会と接点を持ちにくい人々が美術館等を利用しやすくするプロジェクトに、岡山カルチャーゾーンの5館が協働して取り組むことができた。
今後の課題	教育普及事業は幅広く展開することは今後も重要と考えるが、一方で職員のマンパワーには限界があり、スクラップ&ビルドが必要となりつつある。

3 県立美術館魅力アップ事業

《事業の趣旨・目的》

県民・観光客への広報の充実、若い世代への来館を促進する取組により、美術館が有する多岐多様な魅力を積極的に発信する。

《概要》

○ 「岡山の美術展」（常設展）活性化事業

- ・所蔵作品に加え、借用作品を展示し、充実した内容で集客アップを図った特別展示「清水比庵展」・「もっと伝統工芸」
- ・岡山の美術展や県立美術館そのものに興味と関心をもってもらうための事業として「ウィリアム・モリス展」の会期中に、県内高校生や若手音楽家等の協力を仰ぎ、「Drawing Melodies～響き合う表現～2023」を開催、また、3月には「第2回学芸員ラップバトル」を開催予定。

○ 美術館の魅力発信

平成30年度から配置している「魅力発信スタッフ」がSNS等を活用して、県立美術館で実施する岡山の美術展・特別展などの情報を発信した。また指定管理者と協力し、県外（近畿圏・中四国）でのPRにも努めた。

○ 美術館利便性向上

これまで美術館を訪ねることを躊躇していた人にも美術館を楽しんでもらえるよう、授乳室を増室（1→2）し利便性の向上に努め、「託児サービスの日」も定期的に実施した。

○ 夜間開館

仕事や学校の帰りに美術館でひとときを過ごしたいという方を対象として、毎月最終土曜日に夜間開館を実施した。

○ ボランティア活動（ボランティア 約100名）

多くの県民から親しまれる美術館を目指し、県民と美術館との橋渡しの役割と、美術館活動の円滑な運営をサポートしていただくため、開館当初からボランティア制度

を導入している。また、そのためにボランティア研修会も実施している。

主な活動としては、来館者に対する館内の案内、誘導や、展覧会の案内状の発送作業に携わっていただいている。

○ 主な刊行物

美術館の活動や、展覧会のスケジュールをPRするため、以下の刊行物を発行した。

- ・美術館年報
- ・展覧会図録
- ・美術館ニュース（年4回）
- ・岡山県立美術館紀要
- ・展覧会案内リーフレット

《事業の評価》

自己評価	美術館に親んでもらうための展覧会関連イベントやギャラリーコンサートなどを行ったが参加者も多く、事後アンケートでも高評価をいただいております。一定の成果は上がったと考えています。 昨年度、大変好評であった「学芸員ラップバトル」は、今年度、第2回を開催する予定である。
今後の課題	引き続き美術館に親んでもらうことや利便性の向上を図るとともに、各種の取り組みを県民に知ってもらうことが必要である。

4 岡山県新進美術家育成「I氏賞」事業（事務局：県立美術館）

《事業の趣旨・目的》

岡山県にゆかりのある新進美術家を育成するため、絵画、彫刻等の創作活動に優れた資質を示し、将来が期待される若手美術家に「I氏賞」を授与するとともに、受賞作家展の開催等により創作活動を支援する。

《概要》

- 岡山県にゆかりのある若手芸術家を表彰、支援する「I氏賞」を選考し、贈呈する事業を平成19年度から実施している。（大賞1名、奨励賞2名以内）

令和3年度まで、毎年度賞の選考を実施してきたが、運営方法の見直しを行い、事業年を1年から2年に変更し、1年目に賞の選考や贈呈式、2年目に受賞作家展を実施することとした。

今年度は、11月に第十三回I氏賞受賞作家展（第13回・第14回大賞受賞者（2名））を実施した。現在、第16回I氏賞の選考を進めており、3月には各賞を贈呈する予定である。

《事業の評価》

自己評価	<p>受賞作家展は、大賞受賞者の平子雄一氏と工藤あゆみ氏の作品を展示したが、両者とも現在、国内外で大活躍している作家であり、日頃の研鑽の成果が発揮された大変良い展覧会を開催できた。</p> <p>今年度は運営方法見直し後の最初の賞選考となったが、推薦委員等に周知を図り選考はスムーズに進んでいる。</p>
今後の課題	<p>運営方法の見直しにより2年に1度の賞選考となり、候補者推薦の時間を十分に確保できるようになった。関係者へ十分に周知し一定の水準を確保できるように進めていきたい。</p>

5 特記事項

○ 県立美術館 35 周年記念事業

令和5年3月に開館35周年となったため、記念事業として「開館35周年収蔵品展「CORRELATION-交流と継承」」を開催した。また、35周年を契機に、これまでなかった県美オリジナルのミュージアムグッズの開発を行っている。

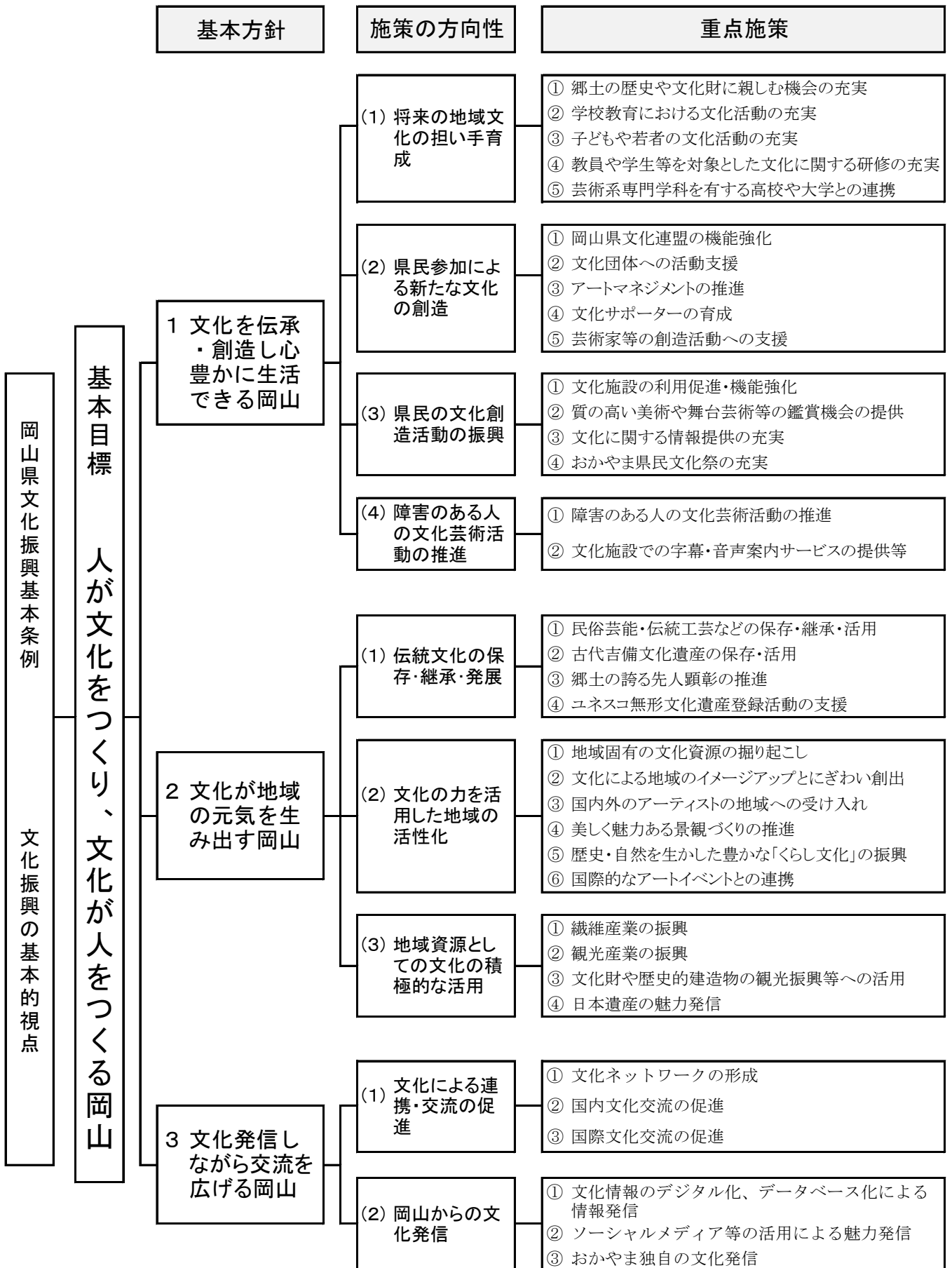
○ 新型コロナウイルス感染防止対策

「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（公益財団法人日本博物館協会）等を踏まえ、感染防止策を徹底してきたが、昨年5月に感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことから、来館者のマスク着用や検温、アルコール手指消毒を任意とするなど制限を緩和した。受付や監視員などの来館者対応スタッフについても、非接触式体温計による検温は継続しつつ、マスク着用は任意としている。

○ 指定管理者の交代

本年度から指定管理者が、鹿島建物総合管理(株)から大林ファシリティーズ(株)に交代した。引継ぎもスムーズに行われ支障は生じていない。

おかやま文化振興ビジョン(2018-2027) 2023改定版 体系図



おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)2023改定版における成果指標の実績

【基本方針】

※H29策定時数値について

・指標名に《累計》と表記がないものは原則として、
H24(2012)～H28(2016)年度の平均値を使用

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3年度実績 (2021)	目標値 R 9年度 (2027)	実績値 R 4年度 (2022)	直近の実績値 R 5年12月末 (2023)
文化施設利用者数	483,612人	267,800人	419,000人	397,365人	293,992人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数					

【重点施策】

(1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3年度実績 (2021)	目標値 R 9年度 (2027)	実績値 R 4年度 (2022)	直近の実績値 R 5年12月末 (2023)
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	1,661人	2,500人	2,360人	1,528人
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数					
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	196回	530回	280回	310回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数					
優れた芸術を鑑賞した学校数 《累計》	668校 (～H28)	1,294校 (～R3)	1,800校 (～R9)	1,577校 (～R4)	1,687校 (～R5. 12)
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計					
アウトリーチ活動実施回数	39回	17回	29回	25回	22回
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数					

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3年度実績 (2021)	目標値 R 9年度 (2027)	実績値 R 4年度 (2022)	直近の実績値 R 5年12月末 (2023)
おかやま文化芸術アソシエイツ への相談件数《累計》	—	537件 (～R3)	1,000件 (～R9)	636件 (～R4)	704件 (～R5. 12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツ(H29.7.31設立)への相談件数の累計					
県が実施するアートマネジメント 講座修了者数《累計》	69人 (～H28)	127人 (～R3)	220人 (～R9)	137人 (～R4)	137人 (～R5. 12)
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					
県立美術館ボランティア数	89人	93人	100人	101人	100人
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数					
岡山県美術展覧会への応募点 数	3,296点	2,282点	3,300点	2,254点	2,130点
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数					

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	267,800人	419,000人	397,365人	293,992人
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数					
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2% (H28調査)	26.2%	38.0%	28.2%	31.0%
(説明) 県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合					
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	7,409件	51,000件	2,193件	57,921件
(説明) 県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数					
県民文化祭参加者数	370,978人	141,246人	215,000人	178,238人	113,565人
(説明) おかやま県民文化祭への総参加者数					
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	—	173件	190件 (R6実施分)	179件	171件
(説明) おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数					

【基本方針】

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (~H28)	519人 (~R3)	950人 (~R9)	606人 (~R4)	625人 (~R5. 12)
(説明) おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					

【重点施策】

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	H29策定時数値 (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
日本伝統工芸展への応募点数	116点	57点	70点	63点	52点
(説明) 日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数					
登録文化財の登録件数《累計》	275件 (~H28)	343件 (~R3)	367件 (~R9)	346件 (~R4)	353件 (~R5. 12)
(説明) 登録文化財の登録件数の累計					

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	H29策定時数値※ (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
県民文化祭地域フェスティバル 実行委員会への参加団体数	118団体	242団体	270団体	477団体	208団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数					
県が実施するアーティスト・イン・ レジデンス事業の1事業当たり の平均参加者数	—	—	4,400人	2,568人	未確定
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当たりの平均参加者数					

【基本方針】

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	H29策定時数値※ (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
文化施設ホームページアクセス 件数	360,035件 (H28実績)	816,717件	1,039,000件	954,554件	1,081,372件
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数					

【重点施策】

(1)文化による連携・交流の促進

指 標 名	H29策定時数値※ (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
文化に関わる人々のネットワー クづくりのためのワークショップ 等受講者数《累計》	—	959人 (～R3)	1,500人 (～R9)	1,031人 (～R4)	1,088人 (～R5. 12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ(H29 年度開始)受講者数の累計					
国民文化祭への派遣団体数	8団体	6団体	10団体	3団体	4団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数					

(2)岡山からの文化発信

指 標 名	H29策定時数値※ (2017)	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
県内文化団体・施設が持つ情報 を集約・発信するホームページ のアクセス数【再掲】	25,697件	7,409件	51,000件	2,193件	57,921件
(説明)県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数					
県立美術館インスタグラムの フォロワー数《累計》	—	—	5,000人 (～R9)	2,998人 (～R4)	3,916人 (～R5. 12)
(説明)県立美術館のインスタグラム(H30年度開設)のフォロワー数の累計					

【参考指標】

指 標 名	H29策定時数値 (2017) ※	改定時現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 6 年度 (2024)	実績値 R 4 年度 (2022)	直近の実績値 R 5 年12月末 (2023)
外国人延べ宿泊者数	145,628人	9,753人	487,000人	59,130人	— 6月公表予定 (R5暦年)
(説明)観光庁「宿泊旅行統計調査」(暦年調査)による外国人延べ宿泊者数 ※目標値は第3次晴れの国おかやま生き生きプランと同一					
観光入込客数	1,433万人	1,099万人	1,600万人	1,499万人	— 7月公表予定 (R5暦年)
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数 ※目標値は第3次晴れの国おかやま生き生きプランと同一					
後樂園の入園者数	744,039人	267,801人	850,000人	651,302人	609,132人
(説明)後樂園の入園者数 ※目標値は第3次晴れの国おかやま生き生きプランと同一					

重点事業調書

担当部局・課名		環境文化部スポーツ振興課、環境文化部文化振興課			
重点事業の名称		地域クラブ活動環境整備事業			
第3次 生き生き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造			
	戦略の枠	8 生きがい・元気づくり支援プログラム			
	施策	1 重点文化とスポーツの力を活用した地域の活性化 2 重点生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進			
第2期 創生 戦略	基本目標	4 地域の活力を維持する			
	対策	4 地域持続的発展のための活力の維持			
	政策パッケージ	4-② 地域社会の活性化			
終期設定(年度)	R7	予算区分	一般	事項名	部活動の地域移行整備事業費
現状 課題 必要性	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行により、学校部活動を従前と同様の体制で運営することが難しくなっている地域があることから、国は、令和4年12月、学校部活動の適切な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき地域クラブ活動の在り方を示すガイドラインを策定し、地域の実情等にに応じて可能な限り早期の実現を目指すよう、県及び市町村にその取組を促している。 ・国は、まずは中学校の休日の部活動を地域へ移行させていくことを目指していることから、県では、中学校を所管する市町村に対し、必要な情報提供を行うとともに、課題の整理や人材バンク機能の充実等を行ってきた。 ・地域のスポーツ・文化環境の整備に向け、地域の実情や課題等を把握するため、市町村やスポーツ・文化団体との意見交換会を開催している。 ・学校部活動の地域連携・地域移行について、環境文化部は、県教育委員会と連携してその取組を進めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・文化活動の機会を学校主体の取組から地域主体の取組へ移行させていく必要があるが、学校部活動がそのまま地域クラブ活動へ移行すると考えている人が一定数存在するなど関係者の理解が十分深まっていない。 ・学校部活動の取組を国が示す地域クラブ活動へ移行させていくにあたり、関係者の理解や地域の実情に応じた段階的な体制整備、指導者の確保等、多くの事項を調整していく必要があり、進め方に苦慮する市町村が一定数存在している。 ・指導可能な地域が限定される指導者も多くいることから、中山間地域をはじめ地域によっては、指導者の確保が困難な状況である。 <p>【必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日の部活動の段階的な地域移行を実現するためには、令和5年度に実施した市町村やスポーツ・文化団体との意見交換会で得られた意見等を踏まえるとともに、市町村、スポーツ・文化団体、学校、地域の関係者等が連携し、その方策の検討や課題解決に向け、情報共有を図る必要がある。 ・指導者の確保を進めるためには、人材バンクの機能等を充実させる必要がある。 ・子どもたちの多様なニーズに応えるためには、指導者の資質向上を図る必要がある。 				
	事業内容	<p>1 新潟市町村等支援事業《379千円》</p> <p>(1) 連絡会議の開催・運営等《379千円》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、県教委、市町村、関係団体等を構成員として、令和5年度に引き続き、意見交換の場を設けるとともに、これまでの意見交換会（県主催）や実証事業（教育庁主催）で得られた課題等の解決策や市町村等への支援方策等の情報共有を行う。 ・全市町村を構成員とすることで、成功例の横展開につなげるとともに広く周知を図る。 <p>2 新潟指導者の育成・登録促進等体制整備事業《7,499千円》</p> <p>(1) 人材バンク「おかやまスポーツナビ」「マイニングおかやま」の充実《6,981千円》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存データのブラッシュアップ ・各指導者の情報として、地域クラブ活動への対応の可否や研修会参加実績等を付加 ・競技団体等と指導者をつなぐ仕組みの開発 ・チラシ作成等による登録促進に向けた啓発 <p>(2) 研修会の開催《518千円》</p> <p>将来的な学校部活動の地域移行を見据え、地域クラブでの活動が円滑に実施されるよう、まずは必要となる知識を有した指導者を多く確保すること、さらには指導者の資質を向上することを目的とし、研修会を行う。</p>			

	<p>①裾野拡大に向けての研修（スタートコーチレベルに相当するもの） これから指導者になることを希望している人、地域クラブ活動に興味のある人を中心とした研修を行う。</p> <p>②資質向上に向けての研修（コーチ1レベルに相当するもの） 中央競技団体等から専門的な講義のできる講師を招き、すでに活動している指導者を中心に、資質の向上を目指した研修を行う。</p> <p><参考：教育庁における取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拠点校における活動充実に向けた実践研究 ○ 中学校における部活動指導員の配置 							
事業の意図 効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進行し、学校部活動として成り立たなくなっている地域であっても、地域の実情等に応じて可能な限り早期に地域クラブ活動の充実を促すことで、子どもたちが継続してスポーツ・文化に親しむことができる環境の充実を図る。 ・学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行の参考となる情報や各種先進事例等を市町村と共有することで、市町村の支援につなげる。 ・人材バンクの機能を充実させ、指導者の掘り起こしを図ることで、地域指導者の裾野の拡大につなげる。 ・子どもたちの多様なニーズに応えられるよう、地域指導者に研修を実施することで、資質の向上につなげる。 							
事業目標	事業	生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等			現状値	目標値(R6)	差	
	1, 2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に応える取組の推進として学校との連携を行っている総合型地域スポーツクラブの割合 <第2次岡山県スポーツ推進計画> 			34.3% (R3)	50.0% (R9)	15.7%	
事業費の見積もり	区 分	R5 予算額	R6 予算要求額	R7 見込額	R8 見込額	R9 以降見込額		
	事業費(単位：千円)	0	7,878	7,218	0	0		
	財源内訳	国 庫	0	518	518	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他特定財源	0	0	0	0	0	
一 般 財 源		0	7,360	6,700	0	0		

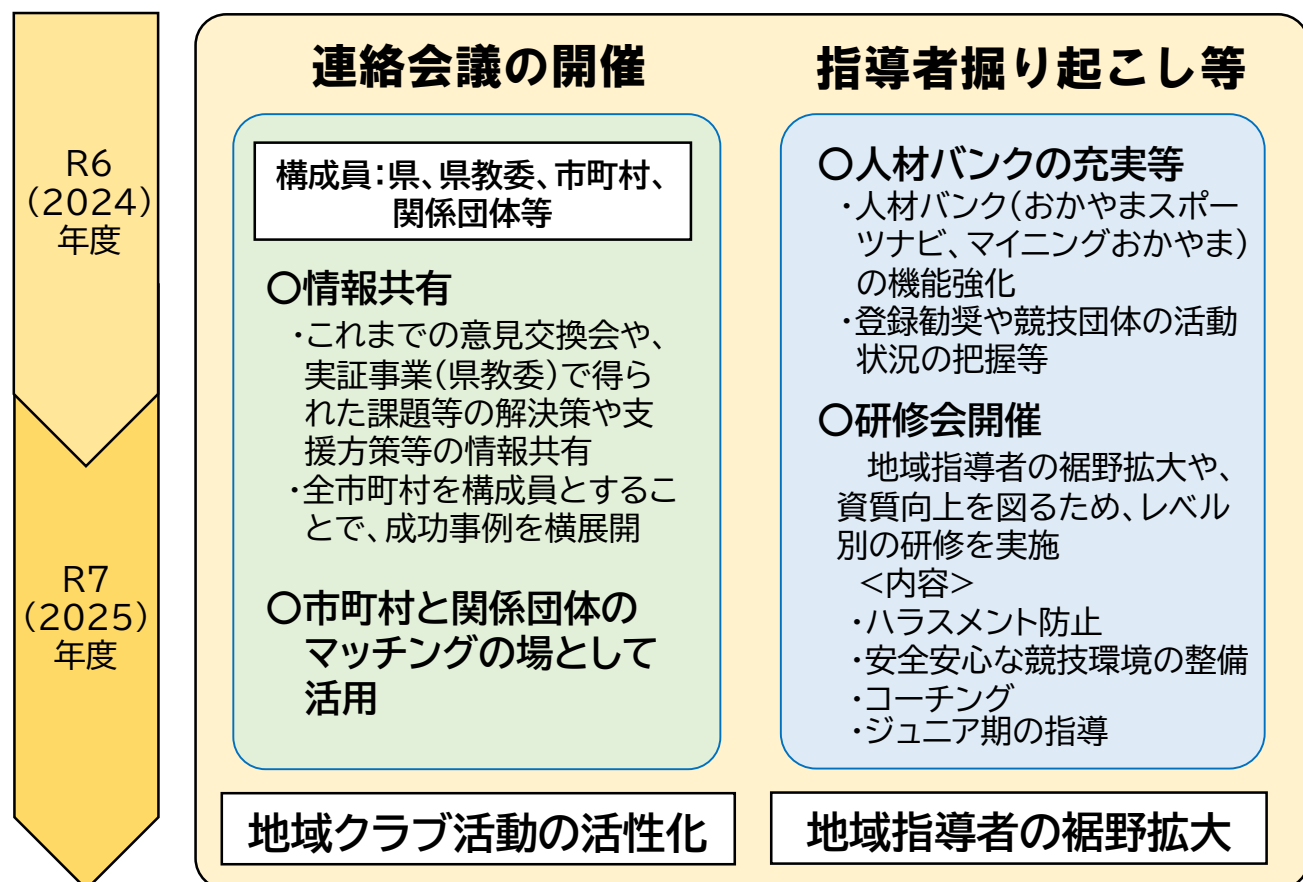
地域クラブ活動環境整備事業

現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化の進行により、生徒が減少し、学校部活動として成り立たなくなるおそれのある地域が存在 ● 国は中学校の休日の学校部活動の地域連携及び地域移行を推進（令和5～7年度:改革推進期間）
方針	地域移行の受皿となる地域クラブ活動の充実を図る
課題	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の実情に応じた体制整備 ②指導者の確保及び質の向上 ③関係者(保護者・教員など)の理解 ④地域クラブ活動の運営に要する費用負担 等

対策の柱

I 市町村への支援

II 人材の確保



将来にわたり子どもたちが継続して多様なスポーツ・文化に親しむことができる機会の確保

○ 文化振興課

(単位：千円)

事 項 名	R 5	R 6	増減
芸術文化活動費	106,025	106,270	245

主な事業と当該予算の増	R 5	R 6	増減
1 おかやま県民文化祭開催 (1) おかやま県民文化祭開催 (2) 岡山県美術展覧会	42,096	42,096	0
2 オーケストラの育成と音楽文化の振興	3,190	3,190	0
3 おかやま子どもみらい塾事業費	4,580	4,580	0
4 岡山県「内田百閒文学賞」	4,151	4,151	0
5 文化を核とした地域活性化促進事業 (1) アートプロジェクトおかやま推進事業 ①おかやまAIR地域協働事業 ②次世代おかやまアーティスト活動促進事業 ③アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業 ④身近にオーケストラ！鑑賞事業 (2) 文化芸術アソシエイツ事業 新 (3) 美作三湯芸術温度を活用した文化芸術振興事業	22,173	26,096	3,923

○ 県立美術館

(単位：千円)

事 項 名	R 5	R 6	増減
県立美術館事業費	61,279	69,767	8,488

主な事業と当該予算の増減	R 5	R 6	増減
1 企画展事業費 【R6特別展】 (1) 走泥社展 (2) 小林正和展 (3) 北斎と広重展 (4) 鈴木敏夫とジブリ展 (5) シルクロード展 (6) 第71回日本伝統工芸展岡山展 (7) 柚木沙弥郎展	58,079	66,048	7,969
2 教育普及事業費 (1) こんにちは美術館事業 (2) 博学・博社連携事業 新 (3) 来館者サービス向上事業	3,200	3,719	519